

ホーム名：グループホームしおかぜ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を額に入れて、一番見やすいところに掲げている。月1回行われるグループホーム会議においても理念をもとにした支援が出来るように討議している。	リビングに「グループホームしおかぜの基本理念」3項目が提示されている。基本理念を念頭に置いた支援が日々実践につながられている。	本ホームが目指す事や大切にしたい事を、もう少し分かり易い言葉で表したい。一目で誰もが理解できる様な理念が望ましいと考える。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、近くの商店街に買い物に行っている。地域の盆踊りや、銭湯で行われるコーラスを聞きに行ったりと地域との交流を大切にしている。	町会に加入しており、地域の行事に参加したり「しおかぜまつり」で地域の方々に来て頂くなどで、地域との交流がなされている。地元の商店街への買い物では、声かけなど頂いている。	今後も積極的に地域と交流する事で、入居者が地域と関わり生活が実感できる支援を継続されたい。また普段の生活を見て頂く事で、認知症であっても地域の中で暮らしていける事の理解が深まれば良いと願う。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症を理解していただくために、またグループホームを知っていただくために『しおかぜまつり』を行い地域の方に来てもらい、入居者が参加する様子を見てもらう、また相談などを受け付ける。8/23		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域からの委員方々に入居者の現状報告や行事への参加の呼びかけ、またご家族からの相談や質問等に答え、議事録はそのたびに全員に郵送している。地域包括の方には、地域の行事の連絡、勉強会の呼びかけ、相談等してもらっている。	偶数月第二木曜日を会議日として設定し、開催されている。入居者・家族・町会長・地域包括支援センター職員・管理者・職員で構成され、事業所報告・行事予定・意見交換等なされている。	議事録は後日全家族に郵送され、出席できなかった家族にも会議内容が伝わっている。今後は、民生委員や副町会長などへの呼びかけで、より広い視野で意見交換されることに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議は2ヵ月に一度、家族、地域包括、町会長、職員が集まり、話し合い、情報の共有や意見を出し合っケアサービスに反映できるように努めている。	本年一月、市の実地指導があり、数点指摘・指導を受けた。運営推進会議へは地域包括の職員が出席しており、普段の相談事は会議の中で包括職員にしている。	今回の実地指導の指摘では、加算の部分で熟知していない点があったとの事。ミスを今後に繋げられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	ゆったりとした雰囲気、入居者の個別に合わせ事故発生の予防を念頭に置き、現在、拘束する事無く過ごして頂いている。	入居者の人権を重んじ、抑制をしないケアの実践がなされている。過去、外出してしまっ入居者がおられ、家族から“施錠をしてほしい”との申し出があったが、鍵を掛けないという事業所の方針の理解が得られ、チャイムの使用に止まった。現在はチャイムも使用していない。	人権重視や自由の保障は、事業主体や事業所また職員の基本的な考えに基づくものである。拘束をしない支援の実践を今後も継続されたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加など、また、グループホーム会議で虐待防止の研修を行うことで、虐待防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用している入居者がいる事から、その制度を理解する必要性があることから、研修への参加を呼び掛けている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>速やかに必要な書類を用意し、丁寧に説明を行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会で出た意見や施設内に設置している意見箱にある意見書を毎月一回、事業所向上委員会にて討議し迅速に対応できるように努めている。</p>	<p>家族の訪問は多く、意見や要望が出やすい環境となっているが、現在事業所に対する不満や要望は聞かれない。年に数回あるイベント時には家族も出席し、「家族会」の形成となっている。</p>	<p>管理者からは、“家族の皆さんに育てて貰っている”との言葉が聞かれた。「家族会」が事業所の充実に繋げられる会へと発展される事を期待したい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月のグループホーム会議・法人職員研修・年2回の職員総会を開催し、参加できなかった職員に対しては個別に周知している。グループホーム会議では職員同士が意見交換を行い反映できるように心掛けている。</p>	<p>毎月のスタッフ会議や普段の支援の中で、意見や提案を聞いている。皮膚の保護の為にアームカバーやレグウォーマーの使用を、また着易い服や5本指ソックスの使用等職員の声が元になった。事務机を移動させた事により、入居者の様子がよりわかる様になった。</p>	<p>職員は家事や家族の介護を経験されており、細かい支援に迄行き届いている。“ずっとこの仕事を続けたい”という職員の声に、仕事に対する熱意と共にホームのあたたかさを感じる事が出来た。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人代表者と職員代表者との話し合いの場を設けている。そして、議論を重ね必要な事項は改善され調整が行われている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現場での直接的指導及び、法人内研修、地域密着型事業者連絡会、グループホームネットワークなどの外部研修に参加する事で、職員の育成に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>大阪市グループホームネットワークへの参加、港区の地域密着事業者連絡会への参加。現場職員も参加し交流学習会を実施している。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人からの訴え、また言葉に出すことが出来ない場合もあり、それまで関わってきた事業所と連携する事や家族からの情報など、職員は様々な角度から本人の要望を感じ取り信頼関係を構築できるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>些細な事でも電話連絡等含め、相談している。面会の際は本人の様子を報告し安心してもらえるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当法人内にある他事業所とも連携し本人、家族を交えて話し合っている。医療等専門的分野に関しては、医師、看護師にも参加してもらい担当者会議の機会を持っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者同士の家事での協力や話し相手ができるように食卓の座席の配置などを工夫している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の面会時間は自由に行っている。日常の生活の報告や相談も面会時に行っている。行事の参加や、野菜作りの手伝いなどもしてもらっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の商店街に毎日買い物に行っている。馴染みの店や、道で声をかけてくれるお知り合いの方がおり、関係が途切れないように支援している。</p>	<p>商店街への買い物や近所の銭湯でのゴスペルを聞きに行くなど、継続した楽しみを持っている。季節の品や洋服を取りに自宅へ同行する事もある。馴染みの洋服屋さんやパン屋さん等へも買い物同行している。</p>	<p>今迄本人が大切にしてきた事や物、関係、場所等、断ち切ることなく継続できるように、今後も支援を続けて欲しい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事は一つのテーブルを囲み、みんなの顔が見える・そして、自然に会話ができたり、時には協力して家事に取り組めるような場面もある。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了した後も、定期的にご連絡を差し上げたり、グループホームにも立ち寄ってくださっている。サービスが終了したご家族同士が連絡を取り合っていたり、今入居されている方の元気な様子を見に来られることもある。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族、スタッフと協力して些細な事でも共有して本人の思いを受け止められるように努めている。	やさしい言葉掛けを行い、表情や行動を読み取る事で、本人の思いに副えるよう努めている。	慣れ合いで職員の思考が先走らないように、入居者の思いや気持ちを感じ取りながらの支援を大切にされたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人、ご家族から日々情報を得られたことを日誌に記録して情報を共有している。また、毎月のグループホーム会議にて意思を統一できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、体調に合わせることが出来るように、記録と申し送りで情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員、その他関係者と話し合う。また、必要に応じては、医師、看護師、法人内のPT、STに助言や指導してもらいより良い介護計画が出来るようにつとめている。	「サービス担当者会議」に関係者が集まり、話し合っている。日常生活の中で、好きなこと（もの）・嫌いなこと（もの）、したいこと・したくないこと、できること・できないこと、を記録し、援助目標・目標期間を掲げている。	計画作成担当者は当初から勤務しており、入居者の入所時から接する事でより現状に即した介護計画が作成できていると感じた。「暮らしの状況」シートも分かりやすい。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が記録類の記入を行っている。申し送りノートは、体調や医師からの指導を記録するノートと、その他、生活・身の周りを記録するノートに分けて活用している。勤務交代時の口頭による申し送りも欠かさず行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同施設内のデイサービスの行事や、個々に興味のある事に応じて参加している。孫の結婚式参加の支援や、自宅に物を取り行く支援など、出来るだけ本人のニーズに応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や近所に住んでいるご家族から情報を得て、地域のイベントに参加する事に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医師が2週間に一度定期的に往診を行っており、かかりつけ医として適切な医療提供を行っている。入居前からの馴染みの歯科を継続して利用している方もあり、家族と職員で協力して支援している。	入居者の多くは、かかりつけ医は従前から法人利用者である。耳鼻科・眼科受診支援は行っている。歯科医は必要に応じてアドバイスを受けることが出来ている。	日常的に関連事業所との連携が出来ており、職員に対する、入居者、家族からの信頼関係が培われていると感じた。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約しており、週1回の健康チェックを依頼している。それ以外にも、体調の変化時や相談も診療所の医師、看護師と連絡を取り合い迅速に対応できるように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は病院関係者と家族と連絡を取り合い状況の把握をしている。また、可能なかぎり病院へ直接訪問し、医師、看護師に会い情報を共有できるようにしている。退院時は診療所の看護師も含めた合同カンファレンスで退院後の安心した生活が出来るように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族とは、入居前から終末期の対応を説明し意向を把握している。終末期は早い段階から、医師を含めたカンファレンスの機会を持ち、必要に応じて、何度も開かれ本人、家族、職員が安心して終末期を迎える事が出来るように努めている。</p>	<p>事業所には「重度化した場合における看取りの指針」が作成され、看取り介護については同意書で確認されている。この期間、3名の看取りを行った。事業所オープン時からの入居者でいずれも90歳代での最期に関わることが出来た。家族からの感謝の気持ちを受け止め、職員は馴染みの人間関係で見送ることが出来た。</p>	<p>外出行動も困難になる中で入居者に寄り添い旅立ちの準備を家族、医療関係者と何度も相談しながらのプロセスは他の入居者・家族とも共有できる物である。家族会にもオープンにされ、自分の時はこうして欲しい等の入居者の気持ちに触れる機会として活かされたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>スタッフ会議の際に事故発生への対応について確認している。ある程度予測される急変についても事前に診療所に相談している。緊急連絡先や職員の連絡網も掲示している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練で通報訓練を実施している。津波による被害が予測される地域なので近所の高層住宅への避難を周知している。近所の地域理事に緊急時の応援を依頼している。</p>	<p>法人全体では防災に関する学習会が行なわれている。訓練は下階のデイサービス職員と共に取り組んでいる。夜間発生を想定した訓練では入居者と共に行動できた。</p>	<p>事業所は建築対応等に一定の指摘を受け転居計画が検討されているが、制約された条件で安全に避難誘導をめざして引き続き近隣住民の理解に努力されたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員は入居者の方は人生の大先輩であるということを常に念頭に置いて接している。と同時に、家族のような堅苦しくない温かみのある会話や関係性が持てるように努めている。</p>	<p>排泄・入浴・着替え等不必要な露出を最小限に工夫し、ひとつ、ひとつへの声かけ、同意を得ることを基本にしている。トイレに1人だけが使用するタオルが掛けられている。</p>	<p>超高齢者が自らの意志で行動するとき、時間をかけてでも入居者の意志を確認、出来る事は本人の生活習慣を尊重し支援に心掛けているようだ。入居者の職員に対する信頼のまなざしを感じた。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者が希望される事を応援し、出来る限り自己決定を尊重している。はっきり言葉に出せなくても表情や行動を読み取り本人の意思に沿えるようにしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の大きな流れはあるが、個々のペースに合わせた生活を過ごせるように努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>買い物は本人と一緒に行き選んで買ってもらうようにしている。散髪のタイミングや店も本人や家族と相談している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は入居者と相談し決定するようにしている。調理、盛り付け、配膳、後片付けを協力して行っている。食事と一緒にいただき会話しながら楽しくいただいている。</p>	<p>3食とも職員の手作りが提供されている。厨房は遮るものはなく、調理作業のすべてが視野に入るスペースである。職員も食事介助をしながら同じ物を食べている。</p>	<p>食事介助は、ペースを合わせ時間をかけて楽しみながらの様子があつた。人気メニューは寿司・カレー・果物の希望も出されるようだ。「美味しかった」と完食した100歳を超える入居者の優しい表情が印象にのこる。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>個人に合わせて、キザミ食やミキサー食など様々な食事形態で対応している。水分摂取量の把握が必要な方は量を記録し、合わせて尿の回数なども把握し、必要時は医師に相談するなどの対応が出来ている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアは個人に合わせて方法で行っている。就寝時は義歯の洗浄をしている。必要時は訪問歯科の利用をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄状況チェック表を記録、参照し本人の排泄パターンを把握し早期にトイレ誘導している。個々に合わせ、トイレや自室ポータブル、歩行していく、2人介助などそれぞれの方法で支援している。</p>	<p>座位が困難な入居者を除きトイレ排泄、見守り、誘導している。</p>	<p>最期まで座位確保しながらの排泄支援に心掛けている。一人ひとりの個性を尊重工夫で、今後も入居者の生活を支援していただきたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄状況チェック表を記録し確認している。繊維質や水分摂取を心掛けている。医師、訪問看護師に相談しながら便秘の解消に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日、時間は自由である。(夜間は職員が一人なのでそれ以外で)入浴嫌いな方は現在いないが、気持ちが向かない時などは足浴、清拭など本人と相談しながら行っている。</p>	<p>2日毎に入浴を楽しむことができている。自室から着替えることで安定した入浴となった入居者もいる。設備条件から制約される介助を要することも生じるが細心の注意、支援を共有する努力をしている。</p>	<p>必ずしも入居者に適した浴槽ではない。深すぎ、広すぎ、等工夫を余儀なくされている。安全第一で不安を与えず喜んで、楽しんで頂ける支援に期待する。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング、居室、食堂、過ごす場所や時間は自由で思い思いに過ごされている。布団干しや寝具の洗濯も曜日で決めているが必要時は柔軟に対応し清潔にしている		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルし作用や副作用を確認できるようにしている。服用の仕方も個別に対応している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味なども把握し、家事やデイサービスのレクリエーションにも参加していただいている。ご家族からの情報により嗜好品を取り入れている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の商店街への買い物や、ベランダの野菜の水やり、散歩、洗濯干しなど。また遠足や、外食も家族の参加や支援を含め取り入れている。その他、孫の結婚式参加の支援や自宅への同行など出来る限りニーズに対応している。	外出可能な入居者は職員と一緒に車椅子で10分近い商店街での買い物はほぼ日課になっている。3階にでてベランダでの物干し、プランター水やり等きっかけを作り声かけ誘導出来る事を見守っている。	一歩でも外に出ていただく事で外気に触れる。五感を刺激し口が開く、感情が表出される機会になる。あわてず、ゆっくりペースで寄り添い支援の姿がほのぼのと感じる。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事業所での預かりと、お小遣い程度の金額を本人が持ち家族から定期的にもらっている方がいる。事務所預かりの方でも、買い物の際には、支払いと受け取りは出来るだけ本人が出来るように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自宅で使用していた携帯電話を使用したい方は必要時介助している。その他、電話は希望があればその都度介助している。家族からの手紙も喜ばれている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなでテレビを囲んでゆったりとソファでくつろげる空間、食事作りの様子や音やおいで食事を楽しみで食堂に来られる方。トイレは常に清潔を保つように、定期的な掃除に加え、汚れを見つけたらその都度掃除している。	エレベーターを降りると、直ぐ出入り口、右側にキッチン食卓、左側に休憩ソファ・テレビが置かれている、うなぎの寝床のようなスペースである。入居者定員6名プラス職員で、ちょっと多い家族の暮らしの雰囲気がある。施設設備は古くなっているが整理整頓され清潔に管理されている。	訪問時、ソファにかけていた入居者から笑顔で挨拶を頂く。歩行器使用で移動をする入居者の自然な行動は自分の意志を感じた。静かに見守りを続けられる支援に期待する。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルで新聞を読んだり、リビングでテレビを見たり、居室で横になったりと、思い思いの場所で過ごされている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者の居室にはすべて私物を持ってきていただいている。安全に過ごして頂くために家具の移動などは、本人、家族、職員で話し合っている。	各それぞれの居室に大きな字の表札がある。入り組んだ居室だが部屋を間違えることはない。居室の様子は入居者の生活レベルを表している。支援の視点で居室の真ん中に手すりが設けられ転倒防止が出来て入居者が安心して移動できている。	職員の業務日誌に清掃、布団干し、シーツの洗濯等のきめ細かな計画がある。家族との繋がりを支援し、誕生日写真を貼り出すことで話題となり、思い出してもらい機会となっている。どんな支援が必要かが具体化されている一例である。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの移動は、本人が出来るだけ安全に自分で行くことが出来るように、動線に椅子を設置している。個々に合わせ、歩行器、見守り、車イス一部自走してもらいなど、出来る事を職員がしてしまわないようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない